富谷町日中友好協会発行

T（とみや）N（にほん）C（ちゅうごく）通　信

＜第88号＞２０１２年　３月

４０周年へ「新春の集い」

日中国交正常化４０周年のスタートを切る「新春の集い」が２月１９日（日）午後２時から、上町会館で行われました。来賓の千葉副町長、相澤町議会副議長、中山県議会議員から日中友好活動の一層の進展に期待が寄せられました。また県協会の武智事務局長からは４０周年の本年４月の植林事業など諸活動について報告がありました。また中国学友会から参加した孫・卞（べん）・朱さんが自己紹介、更に初参加や久しぶりの会員からも“ひとこと挨拶”がありました。

「新春の集い」では冒頭に中国語版「町民歌」を合唱、また中国語の数の読み方を学びながらの楽しいビンゴゲームもあり、景品では中国白酒が一番人気。最後に「友好の翼」を合唱し、名残惜しい中、終了となりました。参加した東北大留学生・孫世海さんから感想が寄せられました。次号で紹介いたします。**（写真右上はビンゴゲームで中国語学習、下は武智事務局長の挨拶）**

恒例の“おひな祭り”

琴の演奏でも「ひな祭り」を演出

県協会女性委員会主催の「おひな祭り」が仙台市内「街中サロンにしむら」で行われました。富谷日中からも水戸・板垣・佐々木・伊豆田さんの４人が参加。金井委員長が、ひな祭りの由来を話したほか、琴の演奏や合唱、懇談で留学生へ振袖の着付けなどで交流しました。

『江戸川柳で愉しむ中国の故事』（若林力著）を楽しむ　⑬

いよいよ「三国志」の時代。やはり劉備（りゅうび）や孔明（こうめい）が多いのは仕方ない。

「さっぱりしたと曹操（そうそう）　へらずロ　」

魏（ぎ）の始祖・曹操が戦いで敗走する時、敵軍が「ひげの長い男が曹操だ」のという大きな声に、剣を抜きあわてて自慢のひげを切り捨てて逃走したという。

「耳たぶが　はみ出す玄徳（げんとく）の　ほおかむり」

蜀（しょく）の劉備玄徳は軍師・諸葛（しょかつ）孔明の働きで小国ながら呉（ご）の孫権（そんけん）、魏の曹操と覇権を争う。「耳たぶの大きい者は幸いを招く」という俗信をいかした一句。それほど耳たぶが大きかったようだ。もっとも「大きいのは耳ばかりかと孫夫人（孫権の妹と婚姻）」という下ネタ気味の句も。

「御孔明　かねて承知と　三度ゆき」「玄徳は　三度見舞って　食（くい）付かせ」

いわゆる「三顧の礼」の故事。高名をかけている。食は蜀とかけている。次号は孔明や関羽等が登場！

話題＆情報

新刊「『中国模式』の衝撃―チャイニーズ・スタンダードを読み解く」

文句なしに今の中国の姿が解説され興味深い。「過渡期の中国社会」では厳しい目で日常の生活風景を、「対中交渉の極意」ではビジネスの進め方も学べる。「昇龍のゆくえ」では経済から世界とのつながり、「アメリカにどう挑むか」では外交政策と中国式に対する理解と対応の重要性を掘り下げ、独自の発展モデルを知る。〈平凡社新書、近藤大介著、８８２円〉

映画「５１（ウーイー）世界で一番小さく生まれたパンダ」

パンダ初来日から４０周年。でもその生態はなかなか知られていない。このドキュメントは体重わずか５１グラムの超未熟児への飼育員そして母と子の絆と愛情が、強い共感を呼び起こす物語。製作・監督・ナレーションは日本の製作委員会。上映は仙台中央通りの桜井薬局セントラルホールで３月１７日から上映。